

大山崎町埋蔵文化財調査報告書

第 7 2 集

大山崎町第 82 次遺跡確認調査



2 0 2 5

大山崎町教育委員会

大山崎町埋蔵文化財調査報告書

第 7 2 集

大山崎町第 82 次遺跡確認調査

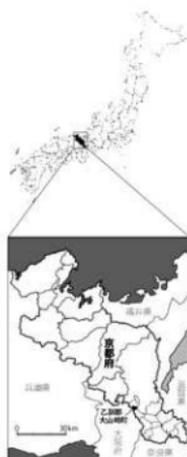


2 0 2 5

大山崎町教育委員会

例 言

1. 本書は、大山崎町教育委員会が令和5年度に実施した宅地開発に伴う発掘調査の報告書である。
2. 座標系は、日本測地系の第VI座標系を主として用いた。これは、これまでの調査成果との整合性を重視したためである。ただし、世界測地系の座標を併記している。両測地系の座標値は、相互の変換作業は行わず、それぞれ実地に設置した既存点から実際に測量して求めた。
3. 調査回数については、以下の略号を用いた。
長岡京跡・宮城（P）、左京城（L）・右京城（R）、山城国府跡（K）・山崎津跡（T）・山崎城（YJ）。本書で調査回数の区分を表す場合は、上記の括弧内に示したアルファベットの略称を用いる場合がある。
4. 各調査回数に付された地区名については、高橋美久二1977「長岡京跡昭和51年度発掘調査概要」（京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概要1977』）による小字名を基にしたアルファベット表記の地域区分に準じ、同一地区内における調査の回数は、アラビア数字を末尾に付して示している。
5. 地形区分については、「1：25,000土地条件図京都南部」（国土地理院1966年印刷）、「長岡京市域地形分類図」（『長岡京市史』資料編一付図2,1991年）を参照した。
6. 本文中で表記した「西国街道」は特に断らない限り府道西京高槻線を指す。
7. 発掘調査及び整理作業では、以下の方々に参加・協力を得た（敬称略・五十音順）。
株式会社サポートスタッフ
調査整理員：天谷明子・坂林彩也・村上優美子
町立大山崎中学校職場体験実習生：鈴木美結・宮下紡・森田陽子
8. 本書の作成は、大山崎町教育委員会事務局 生涯学習課 文化芸術係が担当した。松崎俊郎・八木麻里の助言と協力を得て、編集・執筆は、菅生薫が担当した。
9. 表紙のカットは、大山崎町第82次遺跡確認調査出土の蓋 報告番号4（縮尺6分の1）である。



目 次

1. 令和5年度における発掘調査 1
2. 大山崎町第82次遺跡確認調査（7YYMS'BD-3地区）調査報告 1

1. 令和5年度における発掘調査

大山崎町教育委員会が令和5年度に実施した調査は3件である(表1)。このうち、開発等の工事に伴う国庫補助事業による調査が2件(表1、番号1・2)、原因者負担の調査が1件であった(表1、番号3)。本書では、このうち、後者の調査成果を収録する。

2. 大山崎町第82次遺跡確認調査 (7YYMS'BD-3地区) 調査報告

調査地 京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字琵琶谷7

調査期間 令和6年3月22日～令和6年4月19日

調査面積 104㎡

1. 位置と環境

当該地は、標高27m～28mの低位段丘に立地する。調査地の南には古代山陽道(近世西国街道)が走り、当該地の東に隣接して町道1号線が南北に敷設されている。西側には天王山山麓の急斜面があり、西国街道に向けて緩斜面となっていく地形の変換点にあたる。南西には道昭や行基が造寺に関わったと考えられる山崎廃寺が位置しており、既往の調査では被熱した塑像、壁画、火頭形三尊碑仏が出土している。また、北側には高橋川が東流し、北東には史跡大山崎瓦窯跡がある。

また、当地の北側で実施されたIK51次調査(林亨2005)においては南北耕作溝や階段状遺構が検出されており、弥生時代から中世まで連続と当地で人の活動がなされていたことが判明している。

2. 調査経過

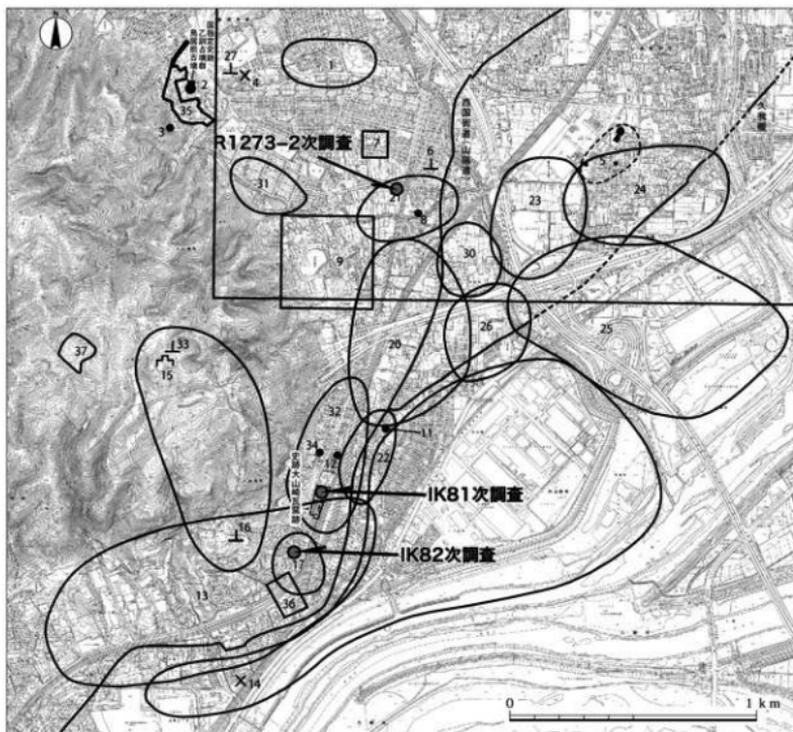
本調査は宅地造成に伴う事前調査として実施した。調査地全体に任意の地区割りを設定し、数字(南北方向)とアルファベット(東西方向)で表記した基軸を設け、それぞれ3m単位で割り付けた。地区名は、当該地区の四隅のうち北西の基軸交点の名称で表記した。この任意座標の国土座標に対する振れ角は $12^{\circ}34'12''$ である。調査は令和6年3月22日に開始し、令和6年4月19日に終了した。

3. 基本層序

基本層序は5層に区別される。第1層から第2層は、当該地に所在していた旧個人宅にともなう造成土であり、第3層は近世後期以降の遺物包含層、第4層は古代の遺物を大量に含み、中近世

表1 令和5年度発掘調査一覧

番号	調査 回数	地区名	調査地	調査 機関	調査 面積	原因者	調査 期間	所収
1	長岡京跡右京 第1273-2次調査	7ANSSR-10・SSZ-9 地区	大山崎町字円明寺小 字里ノ後26-1、26-6、 27-1、28-1	大山崎町 教育委員会	160㎡	詳細分布調査	231020	大山崎町 第71集
2	第81次 遺跡確認調査	7YYMS' SS-17 地区	大山崎町字大山崎小 字白味才42-1	大山崎町 教育委員会	53㎡	範囲確認調査 (国庫地助事業)	240124 ～240325	大山崎町 第71集
3	第82次 遺跡確認調査	7YYMS' BD-3 地区	大山崎町字大山崎小 字琵琶谷7	大山崎町 教育委員会	104㎡	宅地造成に伴う発掘 調査	240322 ～240419	本報告書



遺跡名

1 脇山遺跡	9 円明寺跡	14 山崎橋跡	22 堀尻遺跡	32 白味才遺跡
2 鳥居前古墳	11 傍示の木古墳	15 山崎城跡	23 松田遺跡	33 古城遺跡
3 小倉古墳	12 白味才古墳	16 銭原遺跡	24 宮脇遺跡	34 白味才西古墳
4 石倉集石遺跡	13 大山崎遺跡群	17 山崎遺跡	25 下植野南遺跡	35 鳥居前西遺跡
5 境野古墳群	河陽離宮跡	18 長岡京跡	26 算用田遺跡	36 山崎廃寺(山崎院跡)
6 葛原親王塚遺跡	相心寺跡	19 山崎津跡	27 鳥居前遺跡	37 椎尾遺跡(慈悲尾山寺跡)
7 葛原親王屋敷跡遺跡	山城国府跡	20 百々遺跡	30 金藏遺跡	
8 里の後古墳	山崎駅跡	21 久保川遺跡	31 西法寺遺跡	

遺跡の番号は、京都府教育委員会2004年発行『京都府遺跡地図』〔第3版〕に準じたため欠番が存在する。

第1図 大山崎町遺跡地図と令和5年度に実施した調査地 1:20,000

の遺物を少量含む遺物包含層である。第5層は当地の地盤を形成する堆積層である。遺構は第4層上面、第5層上面で検出した。第5層は西から東に向けて傾斜しており、平均 $1^{\circ}24'44''$ を測る。

4. 検出遺構

(1) 中世～近世の遺構

ビットP01 第4層上面で検出した。長径1.1m、深さ0.45mを測る。

ビットP02 第4層上面で検出した。長径0.8m、深さ0.3mを測る。

(2) 古代の遺構

ここに挙げた遺構からは古代を示す遺物が出土したが、出土量が少ない遺構が多い。そのため、遺構同士の時期差は明らかにできなかった

ビットP03 地盤層上面で検出した。径0.3m、深さ0.2mを測る。

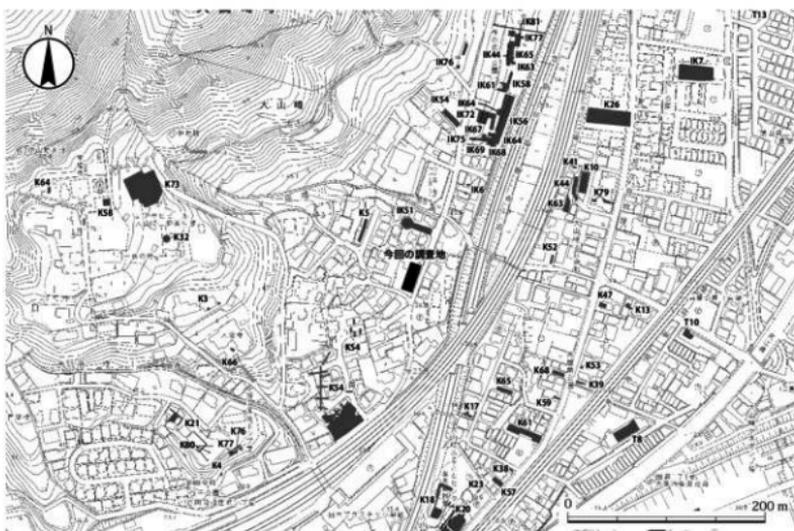
ビットP04 地盤層上面で検出した。径0.2m、深さ0.1mを測る。

ビットP05 地盤層上面で検出した。径0.15m、深さ0.1mを測る。

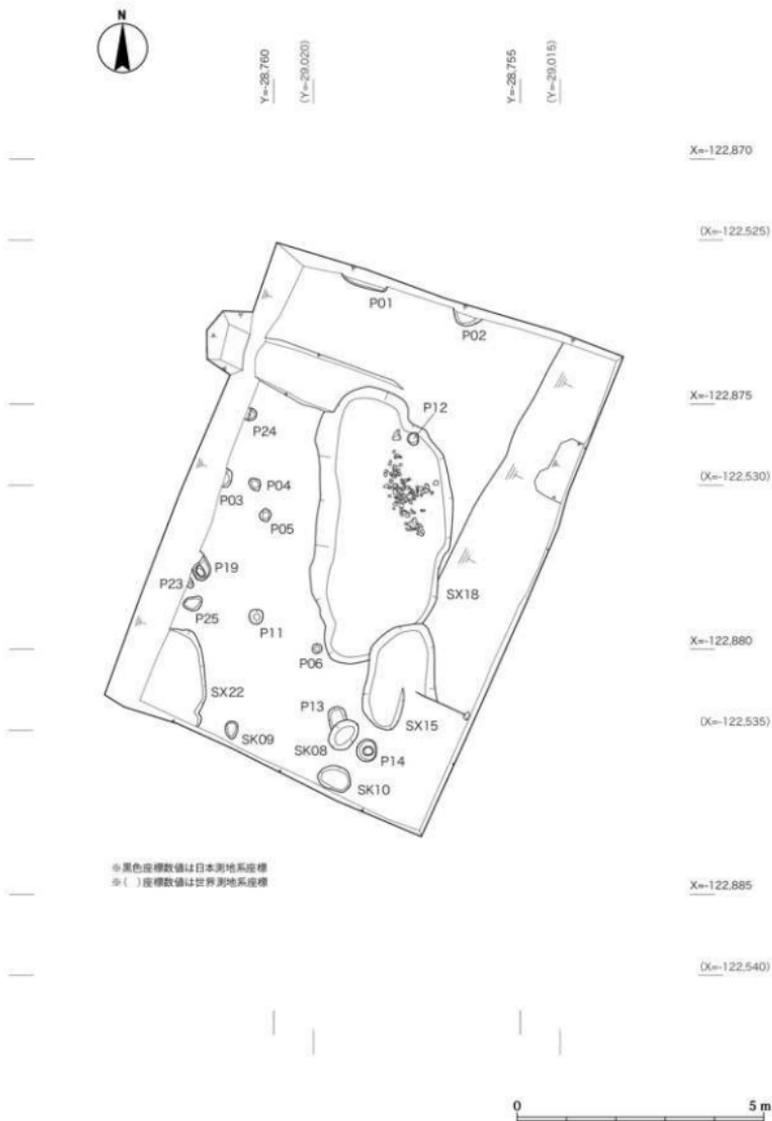
ビットP06 地盤層上面で検出した。径0.15m、深さ0.2mを測る。

ビットP07 SX18埋土上面で検出した。SX18廃絶後の遺構である。第4層の下層で検出したため古代の遺構と考える。径0.25m、深さ0.2mを測る。

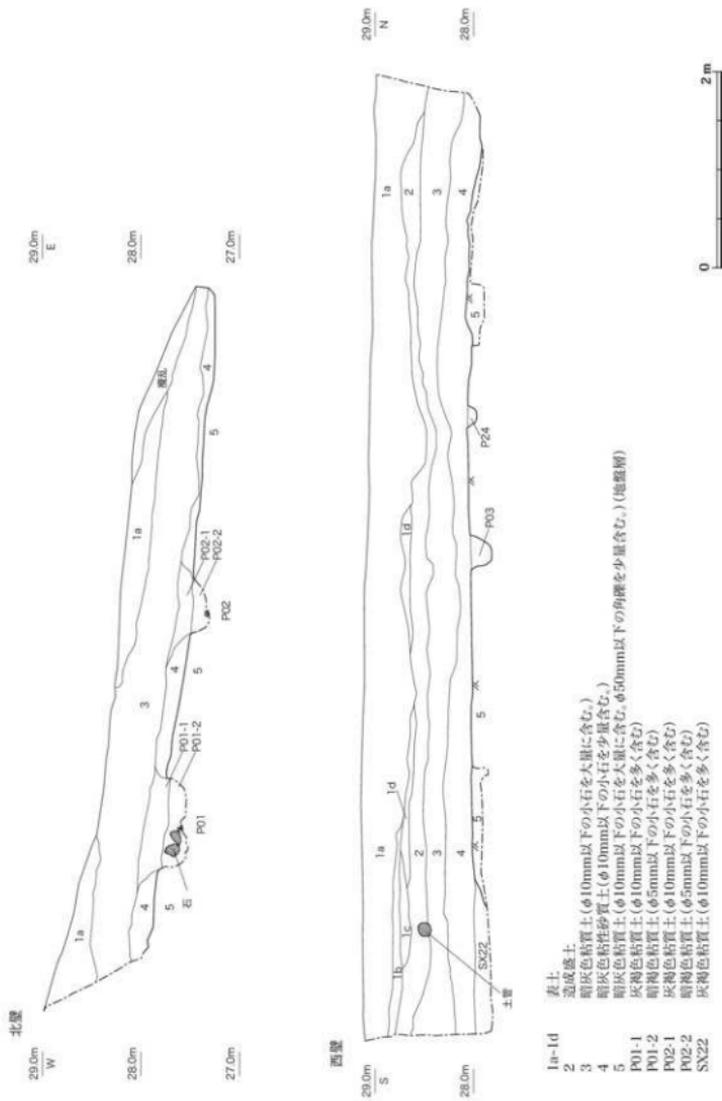
土坑SK08 地盤層上面で検出した。長径0.7m、短径0.5m、深さ0.15mを測る。



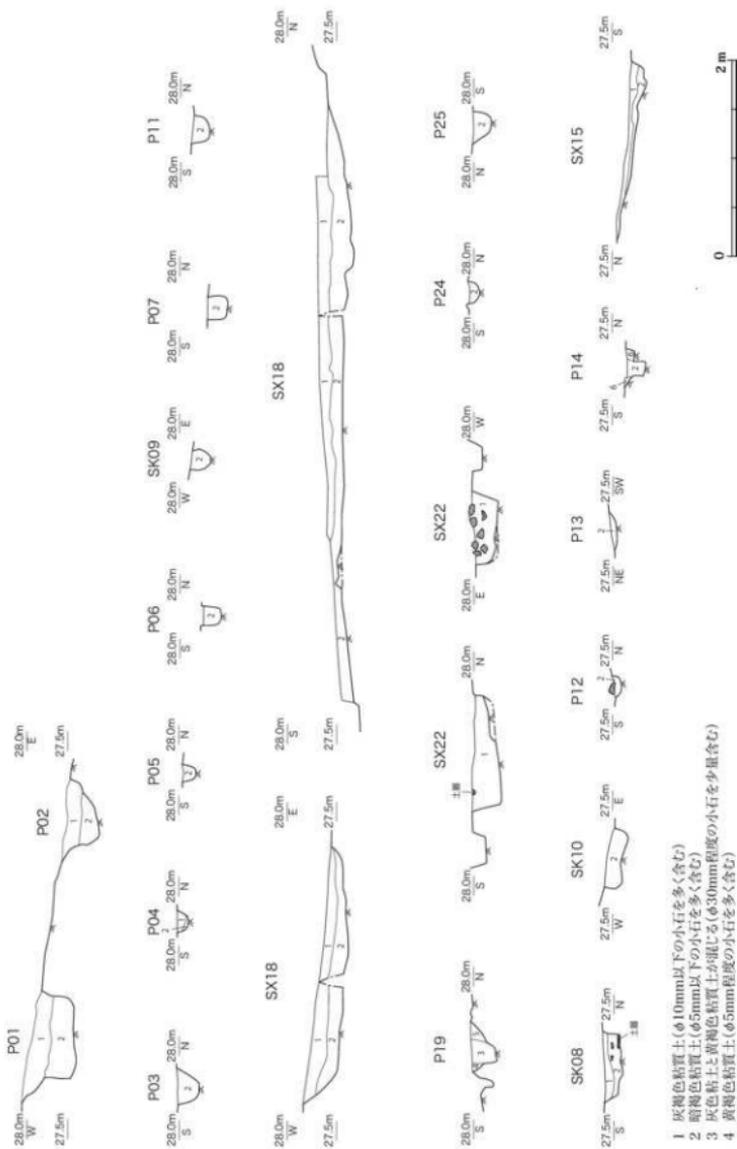
第2図 周辺の調査と調査位置図 1:5,000



第3図 トレンチ全体図 1:100



第4図 調査区断面図 1:50



- 1 灰褐色粘質土(φ10mm以下の小石を多く含む)
- 2 暗褐色粘質土(φ5mm以下の小石を多く含む)
- 3 灰色粘土と黄褐色粘質土が混じる(φ30mm程度の小石を少量含む)
- 4 黄褐色粘質土(φ5mm程度の小石を多く含む)
- 5 暗灰色粘質土
- 6 黄褐色粘質土(φ5mm以下の小石を少量含む)

第5図 遺構断面図 1:50

土坑 SK09 地盤層上面で検出した。長径 0.3m、短径 0.2m、深さ 0.15m を測る。

土坑 SK10 地盤層上面で検出した。長径 0.6m、短径 0.5m、深さ 0.15m を測る。

ピット P11 地盤層上面で検出した。径 0.25m、深さ 0.15m を測る。

ピット P12 SX18 の埋土下の地盤層上面で検出した。SX18 に先行するピットである。瓦類で蓋をされたような検出状況だった。径 0.2m、深さ 0.05m を測る。

ピット P13 地盤層上面で検出した。径 0.35m、深さ 0.05m を測る。

ピット P14 地盤層上面で検出した。径 0.4m、深さ 0.2m を測る柱穴である。

不明土坑 SX15 地盤層上面で検出した。径 1.8m、深さ 0.15m を測る。

不明土坑 SX18 地盤層上面で検出した。長径 5.4m、短径 2.8m、深さ 0.32m を測る土坑である。底部で地盤層由来の石を多く検出した。出土遺物には 2 次的に移動した形跡がないため、土器・瓦を廃棄するための土坑として用いられたことが想定される。出土量は土師器・須恵器が多く、瓦が少量であった。検出状況及び埋土の状況から、SX15 と同一遺構である可能性がある。

ピット P19 地盤層上面で検出した。径 0.5m、深さ 0.25m を測る柱穴である。

不明土坑 SX22 地盤層上面で検出した。長径 1.17m、短径 0.74m、深さ 0.29m を測る。

ピット P24 地盤層上面で検出した。径 0.2m、深さ 0.08m を測る。

ピット P25 地盤層上面で検出した。径 0.32m、深さ 0.15m を測る。

5. 出土遺物

不明土坑 SX18(第 6 図 1～5) 1・2 は須恵器である。1 は杯 A である。内外面にナデが施され、底部にはケズリが施される。2 は壺である。内外面を回転ナデで仕上げ。内面と外面に自然釉が付着する。平城京Ⅲに並行すると考えられる。3・4 は土師器である。3 は蓋のつまみである。4 と胎土・焼成・暗文の特徴が類似しており、接合関係にはないが同一個体であると考えられる。4 は蓋である。外面は口縁部付近を回転ナデ、中心側をヘラケズリで調整する。内面は螺旋状暗文及び斜放射暗文を施す。平城Ⅲ前後に比定される。5 は製塩土器である。他にも、被熱した平瓦や山崎廃寺出土瓦と類似する瓦が出土した。

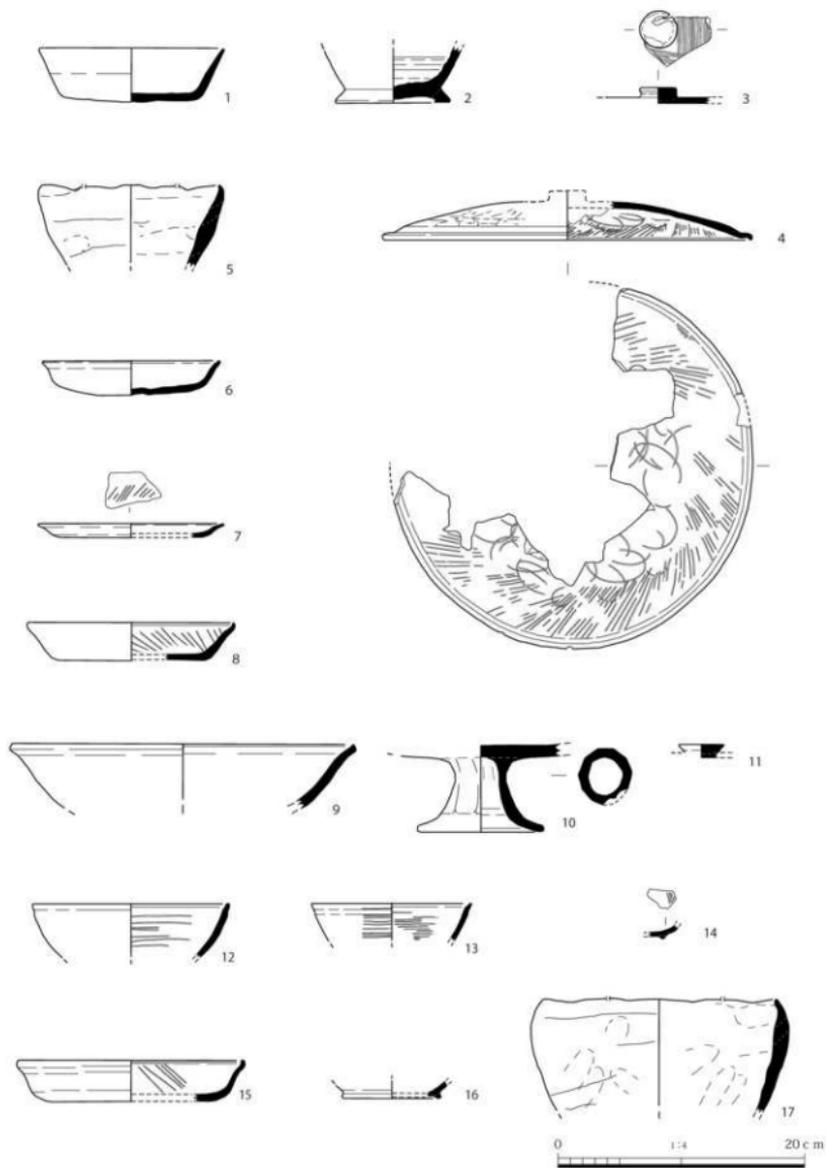
土坑 SK08 (第 6 図 6) 6 は土師器Ⅲである。

不明土坑 SX22 (第 6 図 7～11) 7～11 は土師器である。7 は土師器Ⅲである。底面をケズリ、内外面を回転ナデで調整する。8 はⅢである。9 は杯 A である。10 は高杯の脚部である。11 は蓋のつまみである。いずれも平城Ⅲに並行する時期に比定される。

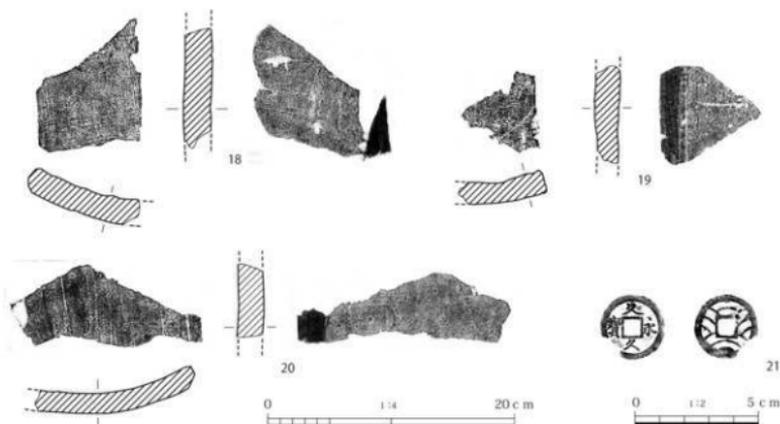
ピット P11(第 6 図 12) 12 は黒色土器である。内外面を回転ナデで調整する。B 形態である。

ピット P12(第 6 図 13・14) 13・14 は黒色土器である。ともに B 形態である。13 は杯又は椀である。暗文が密に施される。内外面ともに回転ナデで調整される。14 は杯または椀である。

遺構外(第 6 図・第 7 図 15～21) 15～21 は第 4 層から出土した。15 は黒色土器椀である。内側のみ黒色の A 形態である。16 は土師器杯 A である。内面に斜放射暗文が残る。17 は製



第6図 遺物実測図(1)



第7図 遺物実測図(2)

塩土器である。18～20は平瓦である。18は凹面は布目が残リ、凸面をヨコケズリ、側面をヘラキリにより調整する。表面・断面ともに白色でやや軟質の焼成である。山崎廃寺出土平瓦の成形及び調整技法などからの寺嶋による分類(註1。以下「寺嶋分類」と呼ぶ。)によるとII a類である。19は凹面は布目が残リ、凸面をヨコケズリ、側面をヘラキリにより調整する。凹面に模骨の痕跡が残るため桶巻作りと考えられる。凸面の側面付近には長軸方向に1条の凹線が残る。表面・断面ともに暗灰色で、硬質の焼成である。寺嶋分類のII a類である。20は凹面はヘラケズリにより調整する。凸面をヘラケズリ後にナデ、側面をヘラキリにより調整する。表面・断面ともに青みがかつた暗灰色で、堅緻な焼成である。18・19の観察所見はいずれも寺嶋分類と一致する。調査地も近隣に所在していることから、本出土例は山崎廃寺と関連するものと考えられる。20のように凹面をタテケズリする例は、管見の限り山崎廃寺出土瓦では確認できず、寺嶋分類にもないが、凸面・側面の調整技法の共通性から、山崎廃寺に関連する瓦である蓋然性が高い。21は文久永寶である。書体は草文である。第3層掘削に伴い出土した。文久永寶の初鋳年は1863年であるため、出土層位の年代の一点を示すといえる。

6. まとめ

当該地では調査区中央に大型の楕円形土坑を検出し、その他には柱穴や土坑、ピットが散在している状況を検出した。

遺物包含層からは、一次利用を積極的に評価することは困難であるが山崎廃寺出土瓦と共通する特徴をもつ平瓦や、赤く焼けた平瓦片が出土しており、山崎廃寺との関連が想起される。また、出土した土師器の年代観は概ね平城Ⅲ期に位置づけられる。大型の蓋や器高の低い高坏が出土しており、

集落遺跡の出土遺物と考えるにはやや特異な遺物もある。本調査地が、山崎廃寺と関連する人々が活動する区域として利用されていた可能性は指摘できよう。

(註)

(1) 寺島千春・吉江崇 2003 「第4章遺物 第2節瓦類」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第25集 大山崎町教育委員会

[参考文献]

- 寺島千春 2003 「山城国府跡第54次(7XYSUD-4地区)発掘調査報告」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第25集 大山崎町教育委員会。
 永井久美男 1996 『日本出土銭鑑覧』兵庫県埋蔵文化財調査会。
 林亨 2005 「大山崎町第51次遺跡確認(7YYMSBD-2地区)調査略報」『大山崎町文化財年報 平成15年度』大山崎町教育委員会。
 平尾政幸 2019 「土師器再考」『洛史 研究紀要』第12号 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所。
 奈良国立文化財研究所 1976 『平城宮発掘調査報告Ⅶ』。

表2 遺物観察表

報告 番号	実測 番号	遺構層位	種類	形状	法量 cm		色別		胎土	割製		焼成	残存度	備考
					口径	器高	底径	内外		断面	内面			
1	5	2A292C IC SX18 南西	須恵器	杯A	[15.0]	4.3	11.3	黄灰 2.5Y6/1	-	器 1mm 以下の 灰、黒、白	コクロナゲ	コクロナゲ、底 面にケズリ	良	大おずか、 T2/3
2	8	2A292C IC SX18 南西	須恵器	碗	-	(4.6)	(9.0)	灰白 5Y7/1	-	器 1mm 以下の 黒、茶、白	コクロナゲ	コクロナゲ、縁 好高台	壊	T1/2
3	20	2A292C IC SX18 南西	土師器	茶つま 缶	-	(1.3)	-	黄 2.5Y8/6	増 2.5Y8/6	器 0.5mm 以下の 黒、白	ナゲ	ナゲ、ミガキ	良	つまみ部分 は存在
4	19	2B IC 第4層 SX18 南西	土師器	盆	[30.0]	(3.1)	-	内面：黄 2.5Y8/6 外面：灰 NS/0 DY87/4	増 2.5Y8/6 増 2.5Y8/6 DY87/4	器 0.5mm 以下の 黒、白、茶	コクロナゲ、割 製射状文、 磨製文	コクロナゲ、ミ ガキ	良	つまみ部分 は存在
5	16	2A292C IC SX18 南西	割版土師	-	[15.0]	(6.5)	-	内面：灰 NS/0 外面：灰 NS/0 DY87/4	-	器 5mm 以下の 灰、白、茶	ナゲ	手づくね、割 手	壊	大おずか
6	18	2D IC S88	土師器	杯A	[14.5]	2.8	11.1	黄 2Y8/7	-	器 2mm 以下の 灰、灰、白、茶	ナゲ	ナゲ、ケズリ	良	2/3、T78
7	3	3A IC SX22	土師器	皿	[15.0]	1.2	(12.0)	黄 2.5Y8/6	-	器 2mm 以下の 灰、1mm 以下の 褐色、黒	ナゲ、増文有り	ナゲ、ケズリ	良	K1/16
8	1	3A IC SX22	土師器	杯A	[21.0]	3.1	(12.4)	内面：黄 2Y8/7 外面：黄 2Y8/6	-	器 2mm 以下の 灰、褐色	ナゲ、割製射 状文有り	ナゲ、底面に ケズリ	良	K1/8
9	2	3A IC SX22	土師器	杯A	[28.0]	(5.2)	-	内面：黄 2Y8/7 外面：灰 2Y87/4	-	器 3mm 以下の 灰、 7mm 以下の褐色 、白、黒	ナゲ	ナゲ	良	K1/8
10	6	3A IC SX22	土師器	高杯	-	(6.8)	(10.0)	黄 2Y8/6	-	器 1mm 以下の 灰、褐色、白 、褐色は最大 12mm) 沿縁に 着	ナゲム、ケズリ 紋有り	ナゲム、割部 にケズリ	良	T1/8
11	4	3A IC SX22	土師器	茶つま 缶	直径： [3.0]	1.1	-	黄 2Y8/6	-	器 3mm 以下の 灰、 1mm 以下の黒、 茶	ナゲ	ナゲ	良	つまみ部分 のみ
12	12	1C IC P11	黒色土師	杯小碗	[16.0]	(4.4)	-	黄 10Y8/1	-	器 0.1mm 以下の 白、黒	ナゲ、ミガキ	ナゲ	良	K1/8
13	10	2A IC P12	黒色土師	杯小碗	[13.0]	(3.1)	-	黄 NS/0	-	器 0.1mm 以下の 白、黒	ナゲ、ミガキ、 磨製	ナゲ、ミガキ、 磨製	良	K1/10
14	11	2A IC P12	黒色土師	杯小碗	[12.0]	(1.1)	-	黄 NS/0	-	器 0.1mm 以下の 白、黒	ナゲ、増文有り	ナゲ、増文有 、縁高台	良	K1/24
15	7	1C IC 調査	土師器	杯A	(18.5)	3.4	(12.6)	黄 2Y8/7	-	器 1mm 以下の 灰、茶	ナゲ、割製射 状文有り	ナゲ、ケズリ	良	K1/3
16	9	1A IC 調査	黒色土師 A	碗	-	(1.4)	(8.0)	内面：黄 2.5Y8/6 外面：黄 2.5Y8/6	増 2.5Y8/6	器 1mm 以下の 黒、茶、白	コクロナゲ	コクロナゲ	良	T1/8
17	17	2A292C IC SX18 南西	割版土師	-	[19.0]	(9.1)	-	内面：黄 2.5Y8/6 外面：黄 2.5Y8/6 DY87/4	-	器 5mm 以下の 灰、茶、白	手づくね	手づくね、割 手	壊	大おずか
18	15	2C IC 第4層 IC	平瓦	長さ： (9.8)	幅： (9.7)	厚さ： 2.1	-	明褐色 2.5Y87/1	-	器 1mm 以下の 灰、褐色、白、 2mm 程度の白、 褐色沿縁に	断面：布目織	片面：タタキ、 ケズリ	壊	やぐら破片
19	14	2C IC 第4層 IC	平瓦	長さ： (7.8)	幅： (7.2)	厚さ： 1.8	-	内面：黄 2.5Y8/6 外面：灰 NS/0	-	器 1mm 以下の 灰、白、 2mm 程度の白、 褐色沿縁に	断面：布目織	片面：タタキ、 ケズリ	壊	破片
20	13	2C IC 第4層 IC	平瓦	長さ： (6.5)	幅： (15.0)	厚さ： 2.0	-	灰 NS/0	-	器 2mm 以下の 白、褐色、白、 黒、黒	断面：タタキ、 工具ナゲ	片面：ナゲ、 タタキ	壊	破片
21	21	1A IC 調査	金貨 (文久水 寶)	W(g):2.21 G(mm):26.7 N(mm):21.15 g(mm):8.65 n(mm):6.70 Y(mm):0.95 1mm)D:46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ほぼ完全、 一部欠け

圖版



1 重機掘削風景 (北から)



2 北壁断面 (南から)



3 北壁断面 (南から)



4 北壁全景 (南から)



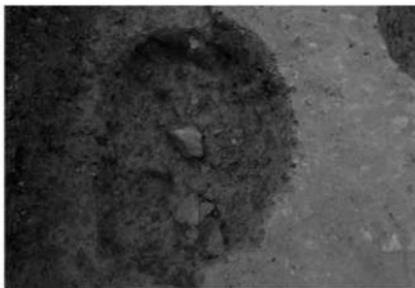
5 SX18 検出状況 (北から)



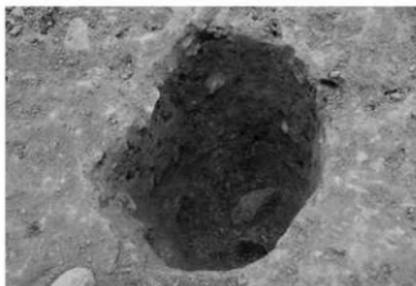
6 SX18 検出状況 (東から)



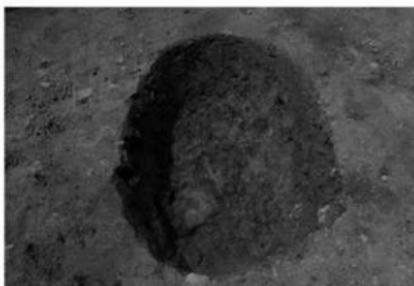
7 SK10 完掘状況 (東から)



8 SK10 完掘状況 (東から)



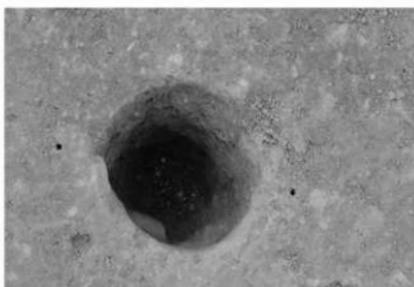
1 P07 完掘状況 (南西から)



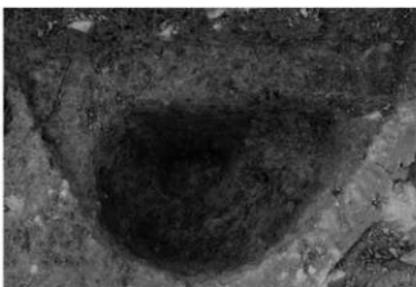
2 SK08 完掘状況 (北から)



3 P14 半掘状況 (東から)



4 P06 完掘状況 (南西から)



5 P19 半掘状況 (東から)



6 P19 半掘状況 (東から)



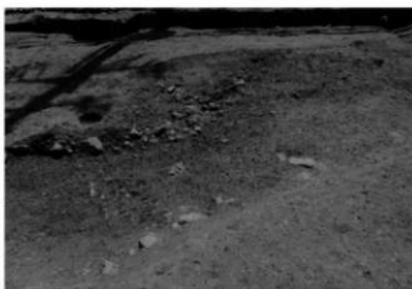
7 SX22 半掘状況 (東から)



8 SK09 半掘状況 (北から)



1 SX15 埋土堆積状況 (西側から)



2 SX18 完掘状況 (西側から)



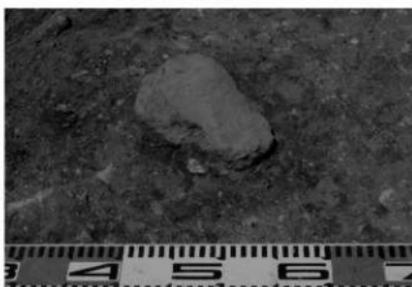
3 SX18 完掘状況 (北東側から)



4 SX18 完掘状況 (南側から)



5 P12 検出状況 (北東側から)



6 P12 検出状況 (東側から)



出土遺物 (1)





18



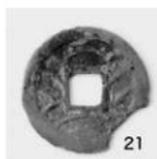
19



20



20



21

報告書抄録

ふりがな	おおやまごきちょうまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ
書名	大山崎町埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	大山崎町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第72集
編著者名	菅生薫
編集機関	大山崎町教育委員会
所在地	〒618-8501 京都府乙訓郡大山崎町円明寺夏目3番地 電話 075-956-2101(代)
発行年月日	西暦 2025 (令和7) 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大山崎遺跡群 山崎遺跡	乙訓郡大山崎町 字大山崎 小学花苞谷7	26303	13 17	34° 53' 41"	135° 40' 46"	20240322 ～ 240419	104 ㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大山崎遺跡群 山崎遺跡	離宮・官衙・寺院・ 駅 散布地	奈良～中世	土坑・柱穴	土師器・須恵器・平瓦・ 丸瓦・瓦器・銭貨	用途不明の大型土坑を 検出。山崎廃寺出土瓦と 同じ特徴を備えた平瓦 が出土した。

令和7年(2025)3月30日 印刷

令和7年(2025)3月31日 発行

『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第72集

編集・発行 大山崎町教育委員会

〒618-8501 京都府乙訓郡大山崎町円明寺夏目3

電話 075-956-2101 (代表)

印刷 三星商事印刷株式会社

〒602-8358 京都市上京区七本松通下長者町下る三

番町273

電話 075-467-5151
